

別添

ウラン鉱床に比較的近い地域及び地質が類似している地域における
地質状況について(平成29年度調査分)

平成30(2018)年6月

東海旅客鉄道株式会社

(1)目的

(2)地質調査実施箇所

- ・ 全体図
- ・ 拡大 I

(3)結果

- ・ ボーリング柱状図
- ・ ウラン濃度分析結果

(1)目的

本書は、岐阜県内の中央新幹線計画路線上において、当社が実施した地質調査等の内、ウラン鉱床に比較的近い地域及び地質が類似している地域において、平成29年度に実施した地質調査結果を示すものである。

(2)地質調査実施箇所

平成29年度に調査を実施した箇所を、全体図、拡大 I に示す。また、調査項目及び数量を下表に示す。(地質調査地点1箇所)

表 平成29年度 地質状況の調査内容

調査位置	調査位置の区分		調査項目		
	ウラン鉱床に比較的近い地域	ウラン鉱床に地質が類似している地域	地質構造の把握	放射能検層	ウラン濃度分析
①	○	○	○	○	○

(3) 結果

ボーリング調査及びウラン濃度分析結果を次頁以降に示す。

平成29年度に実施したボーリング調査の結果、月吉鉱床北側の約3km区間の端部において、ウラン鉱床に類似した地質は確認されなかった。また、今回のボーリング結果を想定地質縦断面図に反映した(図1-3-1)

ウラン濃度分析の結果によると、GL-116.8m~117.0m地点において、26ppm(放射能強度:0.335Bq/g(※1))であり、「岐阜県内月吉鉱床北側3km区間における発生土の管理示方書(平成28年9月岐阜県報告資料)」で定めた管理基準値(77ppm)及びウラン鉱床(※2)と比較して低い値であった。

また、トンネル掘削に伴う前方地質の把握を必要に応じて実施しており、その結果、南垣外斜坑(全長約390m)では、斜坑坑口より約150m付近までウラン鉱床に地質が類似している地域が分布していることを確認した。

※1 ^{238}U と ^{235}U の存在比が99.3:0.7として「ウラン分析法」(平成14年改訂、文部科学省)に記載の換算式により、ウラン濃度(U)から放射能強度に換算した。
ウラン濃度(U)77.5ppmのとき、放射能強度1Bq/gとなる。

※2 旧動燃はウラン探鉱の際に、 U_3O_8 :0.01%(=U:84.7ppm)以上のものをウラン鉱床と位置付け、詳細な調査を行った。

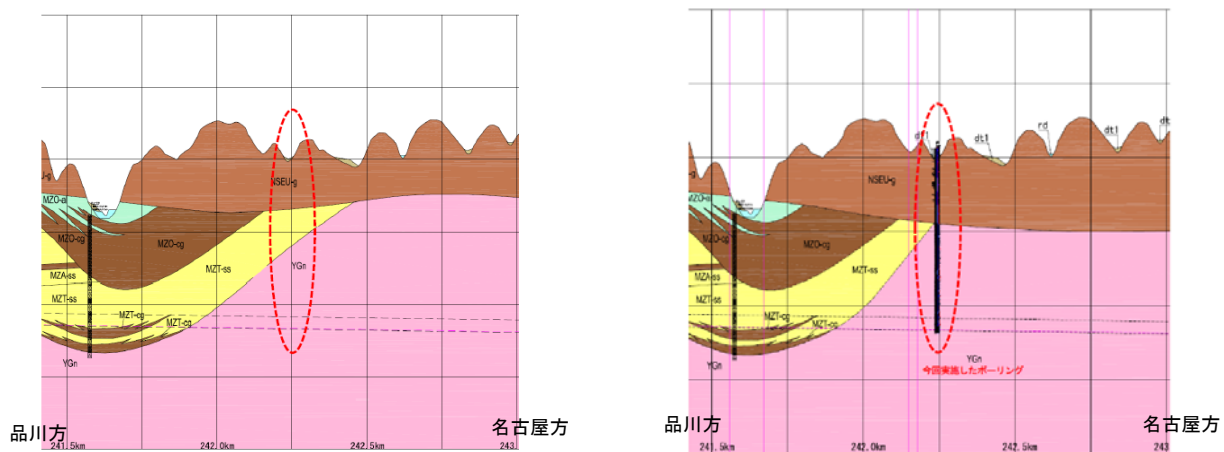
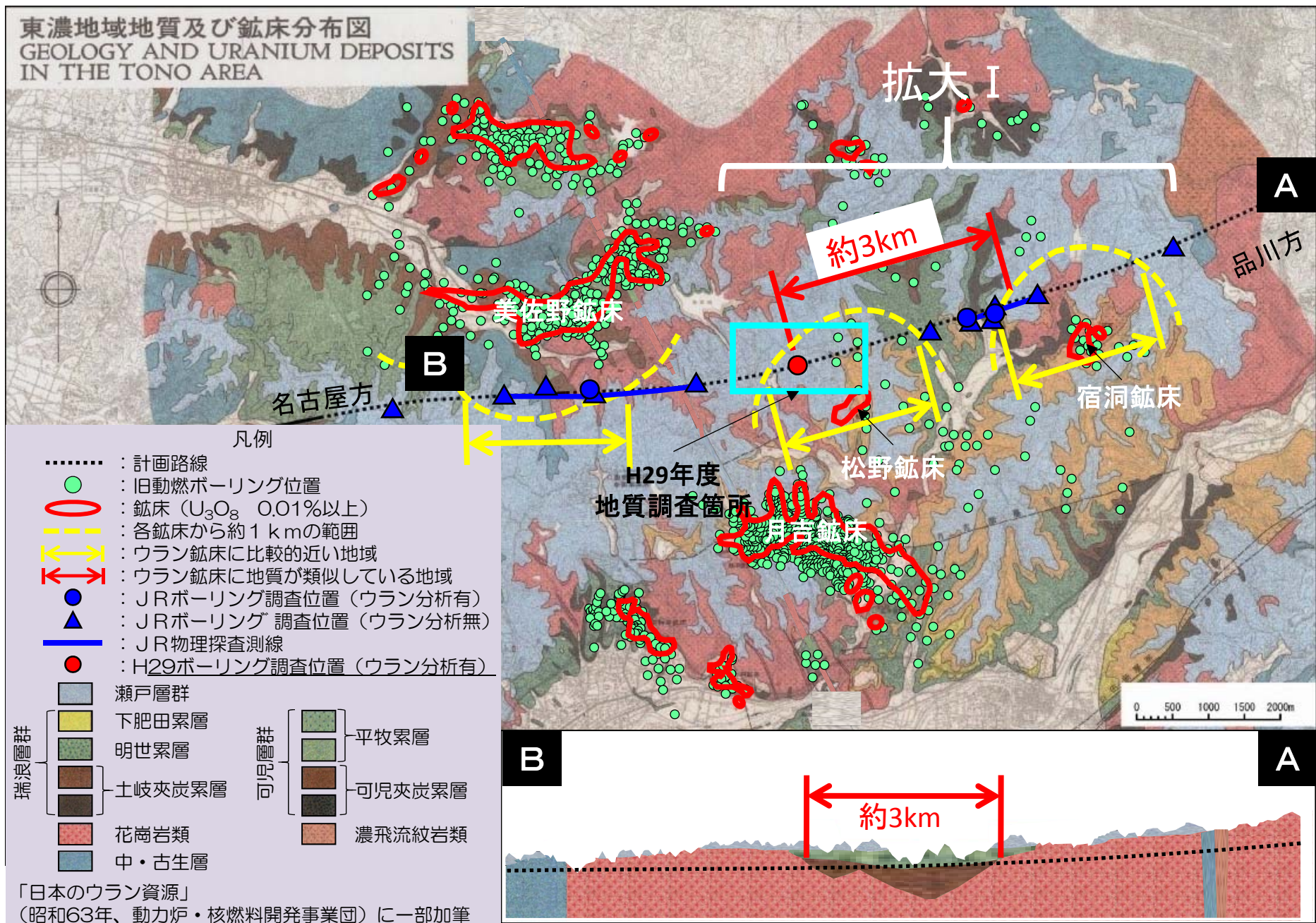
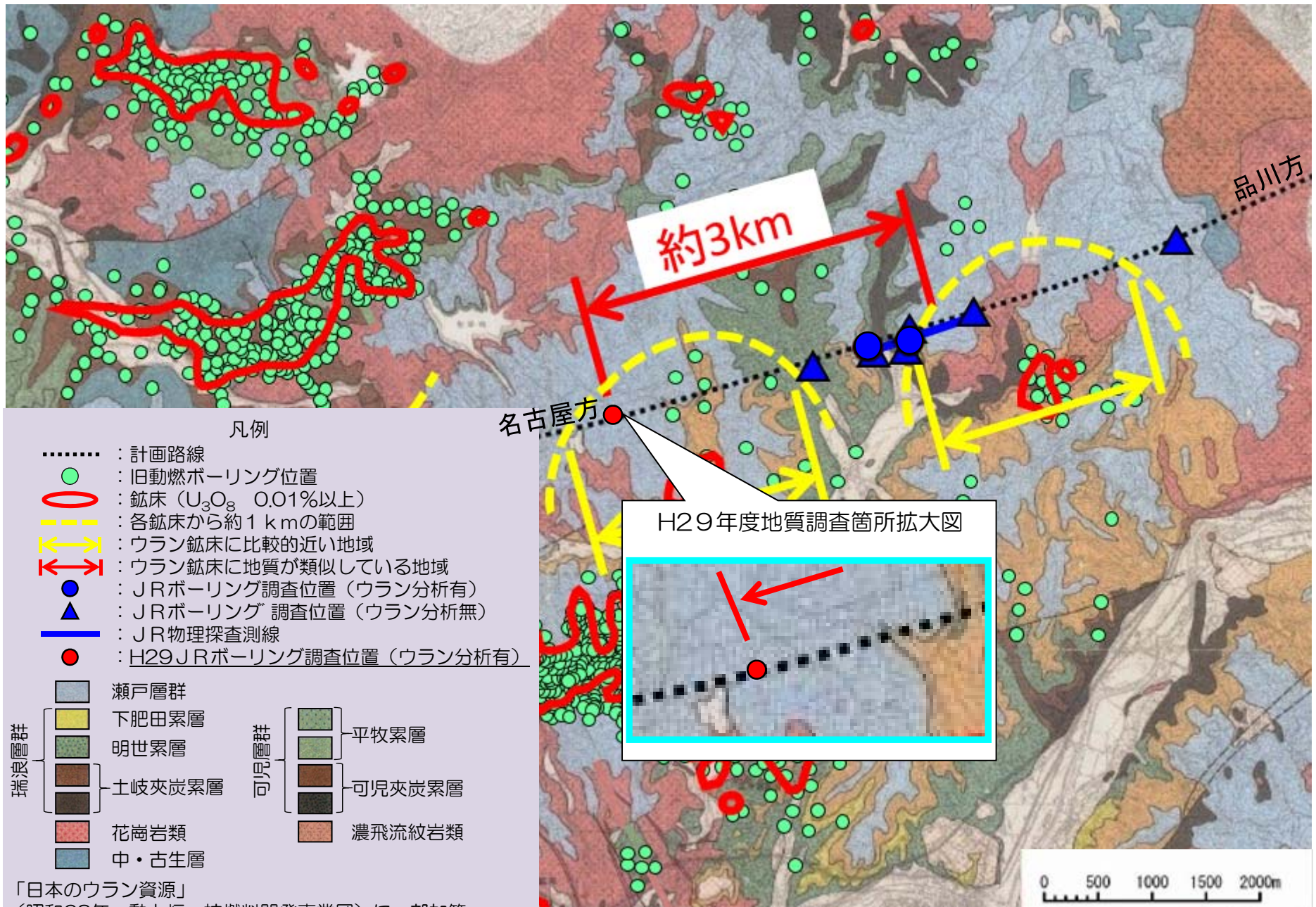


図1-3-1 修正前地質縦断面図(左)、修正後地質縦断面図(右)

地質調査実施箇所【全体図】

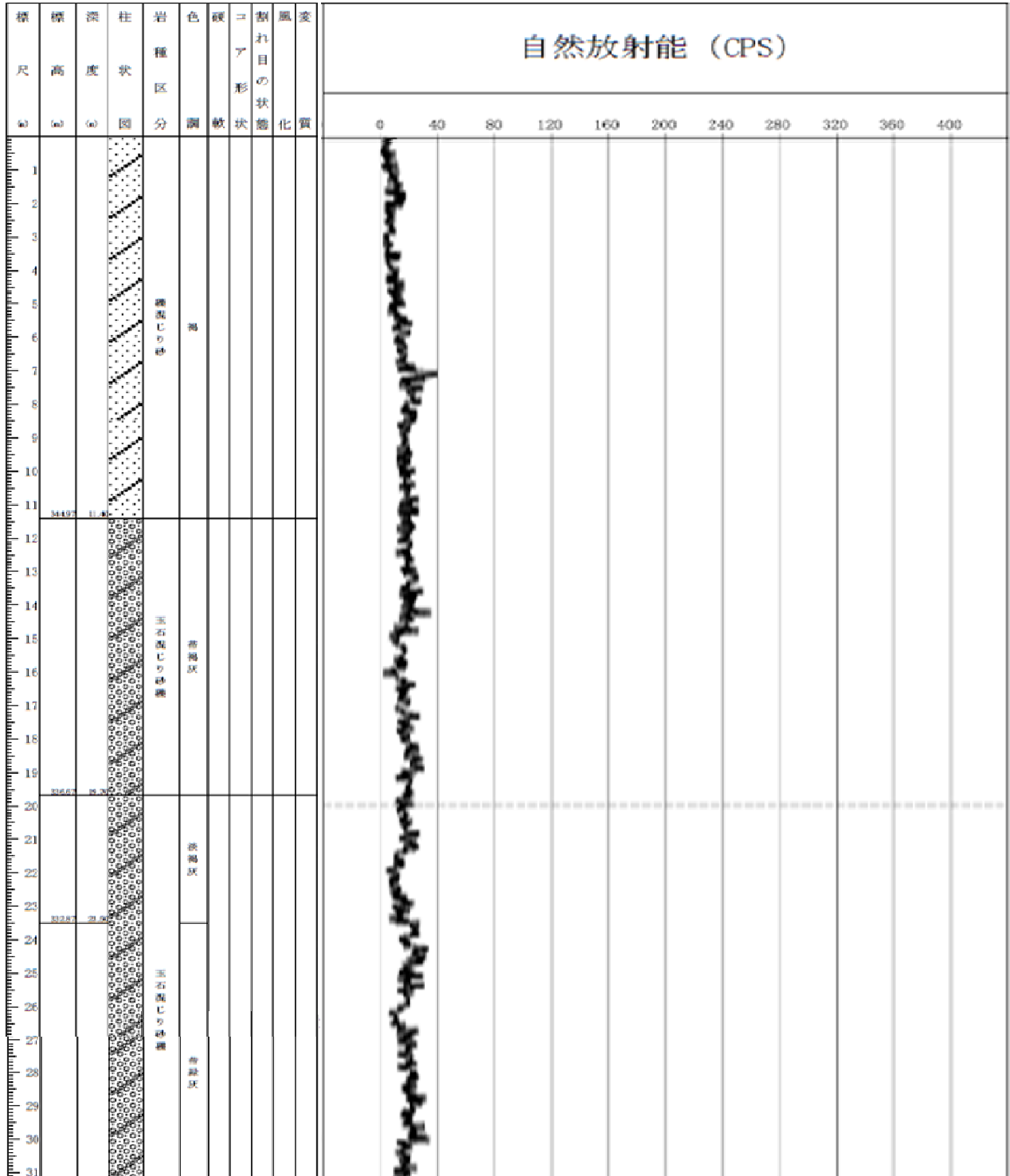


地質調査実施箇所【拡大 I】



ボーリング柱状図

調査位置	①岐阜県瑞浪市日吉町		
北緯	35° 24' 31.47"	東経	137° 13' 5.59"
孔口標高	356.37m	総掘進長	125.0m



ウラン濃度分析結果(別紙)



第 29-03747 号-2/2

依頼番号	08093-02	08098-03	08098-04	08098-05
採取場所	日吉D-1 GL-25.7~25.9m	日吉D-1 GL-50.6~50.8m	日吉D-1 GL-112.6~112.8m	日吉D-1 GL-116.8~117.0m
ウラン	0.37	0.87	7.5	26
	mg/kg-乾			

